



ノートルダム  
学院小学校  
校長 川端博之  
ICT委員会  
平成29年  
9月25日発行

## 4年生にひとりひとりのiPad！（2017年9月）

9月になり、4年生全員が、My iPad を使えるようになりました。それに伴って、子ども達の学びの様子もぐんと変わってきました。まず、(伝統的に行ってきた)朝のスピーチが、My iPad を使ったプレゼンテーション形式に様変わりしました。自分の好きなものやことがら、習い事や家族を紹介する際に、「Keynote」(プレゼンテーションアプリ)を使うことで、話し手の伝えたいことが、聞き手に伝わりやすくなり、今まで以上に聞き手が熱心に聞くようになり、同時に、話し手の子ども達の意欲も大きく向上したのを感じます。My iPad を使い始めて、まだ2週間余りの今、子ども達は、



スピーチ内容や原稿そのものの作成や工夫よりも、画像や映像作りに夢中になっている段階です。この段階を経て、今後「分かりやすいスピーチをするために」という目的に沿って、ツールとしての iPad、アプリの活用方法を指導し、小さな「ステップ・ジョブズ」を育てていきたいと思えます。

また、理科の授業では、観察単元で活用しています。身近なサクラやヘチマの観察にしても、今までは自分の目を通した一面からの観察でしたが、My iPad で子ども達それぞれが違った角度や距離、高さから撮った写真を用いて観察することで、「サ

クラの枝って、上に行く程細くなってる！」「サクラの葉ってアップで見たら鋭いギザギザだ！」等の発見が出やすくなりました。今後は、実験の様子を My iPad で撮り、レポートも My iPad で作成し、提出したレポートを「ロイロノート」(授業支援アプリ)で共有することを考えています。My iPad を活用することで、子ども達の学びが「受動的」なものではなく、「主体的」なものになるよう、これからも、様々な取組みにチャレンジして行きたいと思えます。(文責：伊藤)



## 「6年生も授業中は1人1台iPad」

6年生での iPad 活用を紹介します。6年生は、「ロイロノート」で意見共有や、調べ学習時にインターネット検索を取り入れるなど用途に応じて、学校用 iPad を1人1台使用しています。インターネットの広い世界がすぐ目の前に広がると、子ども達は、つい、関係のない内容を調べたり、動画を見たりしてしまうこともあります。家庭でも、タブレットやスマートフォン、パソコンなどで、インターネットの世界に触れることの多い子ども達ですが、ネットモラルや情報リテラシーに関しては、まだまだ不十分だと感じています。とても便利で、今や私達の生活とは切っても切り離せないものとなっていますが、知らないまま使うことが一番恐ろしいことだと思います。卒業まであと約半年。様々な授業での活用と共に、正しいモラル・リテラシーについても指導していきたいと思えます。(文責：植村)

## ～1年生 山の家で虫さがし(タブレットを用いて)～

9月の山の家学習で1年生は虫さがしをしました。捕まえた虫を「虫かご」の中で観察するのもいいのですが、その虫がどんなところで、どんな様子で暮らしているのかを共有することも、新しい発見につながります。見つけた虫を、飛ん

で行かないようにそろっと、近づいてパシャッ。ちょっと怖くて触れない虫でも、タブレットなら

恐れずにパシャッ。iPadを持って山を家の野原を駆け回る様子が、旧来の山の家学習と少し違った趣もあり、新鮮に感じました。しかし、残念ながら途中から雨が・・・。「今すぐふたをしてこっちに持って来て～！」(iPadは、防水性が弱いのが難点です)と、急いで回収しま

した。撮った写真は、クラスに持ち帰り友達同士で見せ合ったり、AppleTVを使って大画面で見せて紹介したりしました。(文責：一柳)



### 5年生「みんなで聞き合おう」(個人持ちタブレット学習2年目に入って)

5年生にiPadがやってきて、はや1年半となりました。操作面では、全員が全く不自由なく活用できています。しかし使いこなすことが大切なのではなく、iPadを使って、どんな教育活動を通してどんな力をつけるのか、が大切です。今回は、5年生の授業で行った「みんなで互いの意見を聞きあう」授業を紹介したいと思います。

この授業は【情報】の単元で、「新聞の役割」について学びます。子ども達は新聞の特徴について、国語で学んだのを始め、夏休みの京都新聞スクラップコンクールに参加した経験もあり、良く理解しています。そこで、「よく分かっている新聞調べ」と「よく分かっているネット検索」のどちらが調べやすいかを、プレゼンテーションツールの「Keynote」のスライド3枚でまとめました。

次にそのまとめたスライドについて4人1組で発表し合い、互いに評価し合います。評価するだけでなくグループの代表児童1名も選んでおきます。ここで、グループの代表児童が、クラス全体で9名ほどいることとなります。その9名のもとに、代表ではない児童たちが、それぞれに聞きにいきます。こうすることで、自分の「まとめ」と代表児童の「まとめ」との比較を子どもたちが行い、1人でまとめるだけでは得られない、深い学びができるのではないかと考えました。

こうした授業は、1人1台の環境だからこそ可能となります。学習において、他の子との【比較】はとても重要です。自分で考えて「まとめ」を作るからこそ、人の「まとめ方」が気になり【比較】するようになるのです。まだまだiPadを活用した授業は開発途上ですが、こうした教育活動を、これからもどんどん広げていきたいと思っています。(文責：松谷)

